

## 調査委員会における調査研究報告書

教科名（ 算数 ）

No.1

調査研究の観点	所 見	
	発行者（東京書籍） 発行者番号（2）	発行者（大日本図書） 発行者番号（4）
1 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入に身近な事柄が挿絵で描かれ、基礎的・基本的な内容を押さえてから段階的に習熟度を上げていく配慮がなされている。</li> <li>○ 吹き出しやまとめで数学的な見方・考え方に下線や太字を施し強調している。さらに、統合的、発展的に考えられるような文言を付与している。</li> <li>○ 単元のまとめでは、タイトルに数学的な見方・考え方を使用している。</li> <li>○ 統計的な問題解決の方法をPPDACサイクルで解決することを促している。</li> <li>○ 「プログラミング教育」に関するページやデジタルコンテンツがある。</li> <li>○ 第5学年の「割合」は割増・割引の両方が問題として取り扱われている。</li> <li>○ 第5学年の「単位量当たりの大きさ」の単元の中で、「速さ」を取り扱っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入に身近な事柄が挿絵で描かれ、基礎的・基本的な内容を押さえてから段階的に習熟度を上げていく配慮がなされている。</li> <li>○ 算数の学び方が掲載されており、基本的な課題解決の流れに加えて、新たな気づきをもとに次の課題設定につながることを目指している。その中には、話し方・聞き方も含まれている。</li> <li>○ 文章や図から読み取ることが課題設定されており、数学的な思考力・判断力・表現力の伸長をねらっている。</li> <li>○ 統計的な問題解決の方法をPPDACサイクルで解決することを促している。</li> <li>○ 「プログラミング教育」に関するページやデジタルコンテンツがある。</li> <li>○ 第5学年の「割合」は割増・割引の両方が問題として取り扱われている。</li> <li>○ 第5学年で「単位量当たりの大きさ」と「速さ」をそれぞれの単元として取り扱っている。</li> </ul>
2 構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元末に「算数の目」という数学的な見方・考え方がまとめられているページがある。</li> <li>○ 巻末に「ほじゅうのもんだい」や「おもしろもんだいにチャレンジ」がある。</li> <li>○ 各単元のはじめに、既習の学習をふりかえることができるページがある。</li> <li>○ 巻頭に「学びのとびら」がある。</li> <li>○ 各単元とも、適用の問題や習熟の問題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数学的な見方・考え方を巻末シートにメモする付録シートが付いている。</li> <li>○ 毎時の適用問題や巻末の補充問題「プラス・ワン」が充実していて十分な量がある。</li> <li>○ 巻末に前の学年までの既習事項が確認できる「前学年までのまとめ」がある。</li> <li>○ 第3学年～第6学年は、「ふくろう先生のなるほど算数教室」がある。</li> </ul>
3 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習問題は大きめの文字で読みやすくなっている。</li> <li>○ 細かい模様が入っている図やイラストが掲載されている。</li> <li>○ 新出用語は、黒字で太く書かれており、下線（波線）が引いてある。</li> <li>○ 問題の中と「まとめ」が書かれている所に虫眼鏡のマークがあり、学習問題とまとめの共通点を理解するための手助けになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ どの学年も読みやすい大きさで書かれている。</li> <li>○ 写真やイラストが掲載されている。低学年ではイラストが多く、学年が上がるにつれて日常生活に関連した写真が増えている。</li> <li>○ 新出用語は黒文字で太く書かれている。</li> <li>○ ノートの書き方の見本が載っている。</li> </ul>
4 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1学年～第5学年は上下巻2冊の分冊で、第6学年は1冊で構成されている。</li> <li>○ 第1学年の第1・2単元のみA4判で、第3単元以降はB5判である。</li> <li>○ 第2学年～第6学年の巻末の索引は、算数用語をもとに対応する学習ページを調べることができる。</li> <li>○ 全学年の目次は学習の系統性がわかるようになっている。</li> <li>○ 吹き出しを使ったヒント（考えるための手がかり）が多用されている。</li> <li>○ 西多摩地区で研究された教材が扱われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学年、1冊で構成されている。</li> <li>○ 全学年B5判である。</li> <li>○ 第2学年～第6学年の巻末の索引は、算数用語をもとに対応する学習ページを調べることができる。</li> <li>○ 第2学年から第6学年まで、目次は学習の系統性がわかるようになっている。</li> <li>○ 巻末には前学年までのまとめが掲載されている。</li> <li>○ 算数に関する歴史上あるいは生活上のトピックスが随所に掲載されていて、算数に関する興味・関心を喚起する工夫がされている。</li> </ul>

## 調査委員会における調査研究報告書

教科名（算数）

No.2

調査研究の観点	所 見	
	発行者（学校図書） 発行者番号（11）	発行者（教育出版） 発行者番号（17）
1 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入に身近な事柄が挿絵で描かれ、基礎的・基本的な内容を押さえてから段階的に習熟度を上げていく配慮がなされている。</li> <li>○ 巻頭に思考力・判断力・表現力、数学的な見方・考え方について説明しているページがあり、児童がどのように学習していけばよいかの指針になっている。</li> <li>○ 統計的な問題解決の方法をPPDACサイクルで解決することを促している。</li> <li>○ 「プログラミング教育」に関するページやデジタルコンテンツがある。</li> <li>○ 第5学年の「割合」は割増・割引の両方が問題として取り扱われている。</li> <li>○ 第5学年の「単位量当たりの大きさ」の単元の中で、「速さ」を取り扱っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入に身近な事柄が挿絵で描かれ、基礎的・基本的な内容を押さえてから段階的に習熟度を上げていく配慮がなされている。</li> <li>○ 算数で使いたい考え方を巻頭に記し、統合的・発展的な学びの姿をねらっている。</li> <li>○ 学習の流れが掲載されており、基本的な課題解決の流れに「学びのめばえ」として、新たな問い・気付きをもとに次の課題設定につなげようとしている。</li> <li>○ 統計的な問題解決の方法をPPDACサイクルで解決することを促している。</li> <li>○ 「プログラミング教育」に関するページがある。デジタルコンテンツは、ホームページから使用する。</li> <li>○ 第5学年の「割合」は割増・割引の両方が問題として取り扱われている。</li> <li>○ 第5学年で「単位量当たりの大きさ」と「速さ」をそれぞれの単元として取り扱っている。</li> </ul>
2 構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前の学年で学んだ数学的な見方・考え方を領域別にまとめられているページがある。</li> <li>○ AB版で、横幅が21cmになり広くなり、左側に思考の流れ、右側に見方・考え方が書いてある。</li> <li>○ 基礎・基本の扱いが重視され、思考の流れに沿って考えることができる。</li> <li>○ 特設ページがあり、単元ごとに見直したり、深めたりすることができる。</li> <li>○ 「活動!!」「アクティブ!!」のページがあり、1つの課題に対しても深い学びができるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻末に数学的な見方や考え方がまとめられている。</li> <li>○ 「学びの手引き」で、「コンパスの使い方」や「数直線のかき方」など学年で扱う図形のかき方や数学的な書き表し方が説明されている。</li> <li>○ 前学年までの学習のつながりをふりかえることができる「学びのマップ」がある。</li> <li>○ 「習得→活用→探究」のサイクルで単元が構成されている。</li> <li>○ 「ステップアップ算数」「広がる算数」という自分で取り組むページがある。</li> <li>○ 問題発見・解決の過程を「はてな→なるほど→だったら」の吹き出しで示してある。</li> </ul>
3 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書に書き込みやすいように、空白が広くとられていたり、数字を書く枠が大きくとられていたりする。</li> <li>○ 第1学年の教科書は絵やイラストが多く掲載されている。</li> <li>○ 新出用語は、黒く太字で書かれている。</li> <li>○ 各単元の導入には身近なことから算数の学習へとつながるような漫画が掲載されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数直線や図などがノートに書きやすいよう、マス目の上に書かれている。</li> <li>○ 身の回りにあるものや、算数で使う教材教具の写真が掲載されている。</li> <li>○ 新出用語は赤字で太く書かれている。</li> <li>○ 単元の終わりに載っている四コマ漫画で振り返りができるような工夫がされている。また、「広がる算数」には、身の回りにある算数に関する事象について取り組める教材が載っている。</li> </ul>
4 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1学年～第5学年は上下巻2冊の分冊、第6学年は1冊で構成されている。</li> <li>○ 全学年AB判である。</li> <li>○ 目次は既習事項との関連がわかり、第2学年～第6学年の巻末の索引は、算数用語をもとに対応する学習ページを調べることができる。</li> <li>○ 単元末の振り返りでは、問題ごとに規準が明示されている。</li> <li>○ 発展的な学習は日常生活に根差した問題が多く、算数に関する興味・関心を喚起する工夫がされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第2学年、第3学年、第4学年は上下巻2冊の分冊、第1学年、第5学年、第6学年が1冊で構成されている。</li> <li>○ 全学年B5判である。</li> <li>○ 第2学年～第6学年の巻末の索引は、算数用語をもとに対応する学習ページを調べることができる。</li> <li>○ 単元末のまとめでは、対応した既習ページ番号が記載されている。</li> </ul>

## 調査委員会における調査研究報告書

教科名（算数）

No.3

調査研究の観点	所 見	
	発行者（新興出版社啓林館） 発行者番号（61）	発行者（日本文教出版） 発行者番号（116）
1 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入に身近な事柄が挿絵で描かれ、基礎的・基本的な内容を押さえてから段階的に習熟度を上げていく配慮がなされている。</li> <li>○ 学習の流れが掲載されており、基本的な課題解決の流れに「学びのめばえ」として、新たな問い・気付きをもとに次の課題設定につなげている。</li> <li>○ 統計的な問題解決の方法をPPDACサイクルで解決することを促している。</li> <li>○ 「プログラミング教育」に関するページやデジタルコンテンツがある。</li> <li>○ 第5学年の「割合」では、割引の問題が取り扱われている。割増についてはコラムで取り扱っている。</li> <li>○ 第5学年の「単位量当たりの大きさ」の単元の中で、「速さ」を取り扱っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入に身近な事柄が挿絵で描かれ、基礎的・基本的な内容を押さえてから段階的に習熟度を上げていく配慮がなされている。</li> <li>○ 学習の流れが掲載されており、基本的な課題解決の流れが明示されている。</li> <li>○ 上巻末に「数学的な考え方」や「表現例」があり、児童の思考力・表現力の支援になっている。</li> <li>○ 統計的な問題解決の方法をPPDACサイクルで解決することを促している。</li> <li>○ 「プログラミング教育」に関するページがある。デジタルコンテンツは、スクラッチを利用して、使用することができる。</li> <li>○ 第5学年の「割合」は割増・割引の両方が問題として取り扱われている。</li> <li>○ 第5学年の「単位量当たりの大きさ」の単元の中で、「速さ」を取り扱っている。</li> </ul>
2 構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭には、問題解決学習の流れからノート指導や板書までまとめて参照できるページがある。</li> <li>○ 「わくわく算数ひろば」のページがあり、学期末に活用問題ができるようにまとまっている。</li> <li>○ 各学年とも、巻末にオプションがあり、個に応じて使い分けられるよう工夫されている。</li> <li>○ 巻末の「算数資料集」には、説明の仕方や図のかき方などの必要に応じて確認できる情報がまとめられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各単元の前に「次の学習のために」があり、新しい単元に入る前に既習事項の定着の確認や、新しい学習の準備ができるように構成されている。</li> <li>○ 第2学年～第6学年は、巻末に「算数マイトライ」があり、基礎・基本を繰り返し学習できるページや応用的・発展的に学ぶことができるページがある。</li> <li>○ 第6学年の「マテマランドを探検しよう！」では、漫画でかかれ、興味をもって取り組める構成になっている。</li> <li>○ 第2学年～第6学年は、既習事項を整理したページがあり、児童自身が理解度を確かめることができるようになっている。</li> <li>○ 知識・技能を定着させるために、単元末のページではつまづきやすい内容を重点的に取り上げている。</li> </ul>
3 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キャラクターが話したり考えたりしている様子の言葉は、問題文よりも、ひとまわり小さめに書かれている。</li> <li>○ 新しい単元に入る前に日常生活の中で見かける算数的事象を漫画にしたものや、イラストなどが使われている。</li> <li>○ 新出用語が黒字で太く書かれている。</li> <li>○ 全学年で統一したキャラクターが登場している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高学年でも大きめの文字で見やすくなっている。</li> <li>○ 図や表、グラフなどはマス目の上に書かれている。</li> <li>○ 新出用語は、黒字で少し太く書かれている。</li> <li>○ よくある間違いが提示してあり、誤答を通して理解を深める活動内容が入っている。</li> </ul>
4 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第2学年、第3学年、第4学年は上下巻2冊の分冊、第1学年、第5学年、第6学年は1冊で構成されている。</li> <li>○ 全学年B5判である。</li> <li>○ 目次は既習事項との関連が分かり、第1学年～第6学年の巻末の索引は、算数用語をもとに対応する学習ページを調べることができる。</li> <li>○ 各単元の右下のページには「もっと練習しよう」へと、誘導する記載がある。</li> <li>○ 単元末の「たしかめよう」では、対応した既習ページ番号が記載されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1学年～第5学年は上下巻2冊の分冊、第6学年は1冊で構成されている。</li> <li>○ 全学年B5判である。</li> <li>○ 第2学年～第6学年の巻末の索引は、算数用語をもとに対応する学習ページを調べることができる。</li> <li>○ 各単元の右下のページには「しっかりチェック」という補充問題へ、単元末の「たしかめポイント」ページの右下には、「ぐっとチャレンジ」という発展問題があり、一人一人の進度に応じた活用ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 巻末の「もっとジャンプ」は活用力・総合力を試す問題で、より高い次元での興味・関心を喚起する工夫がされている。</li> </ul>